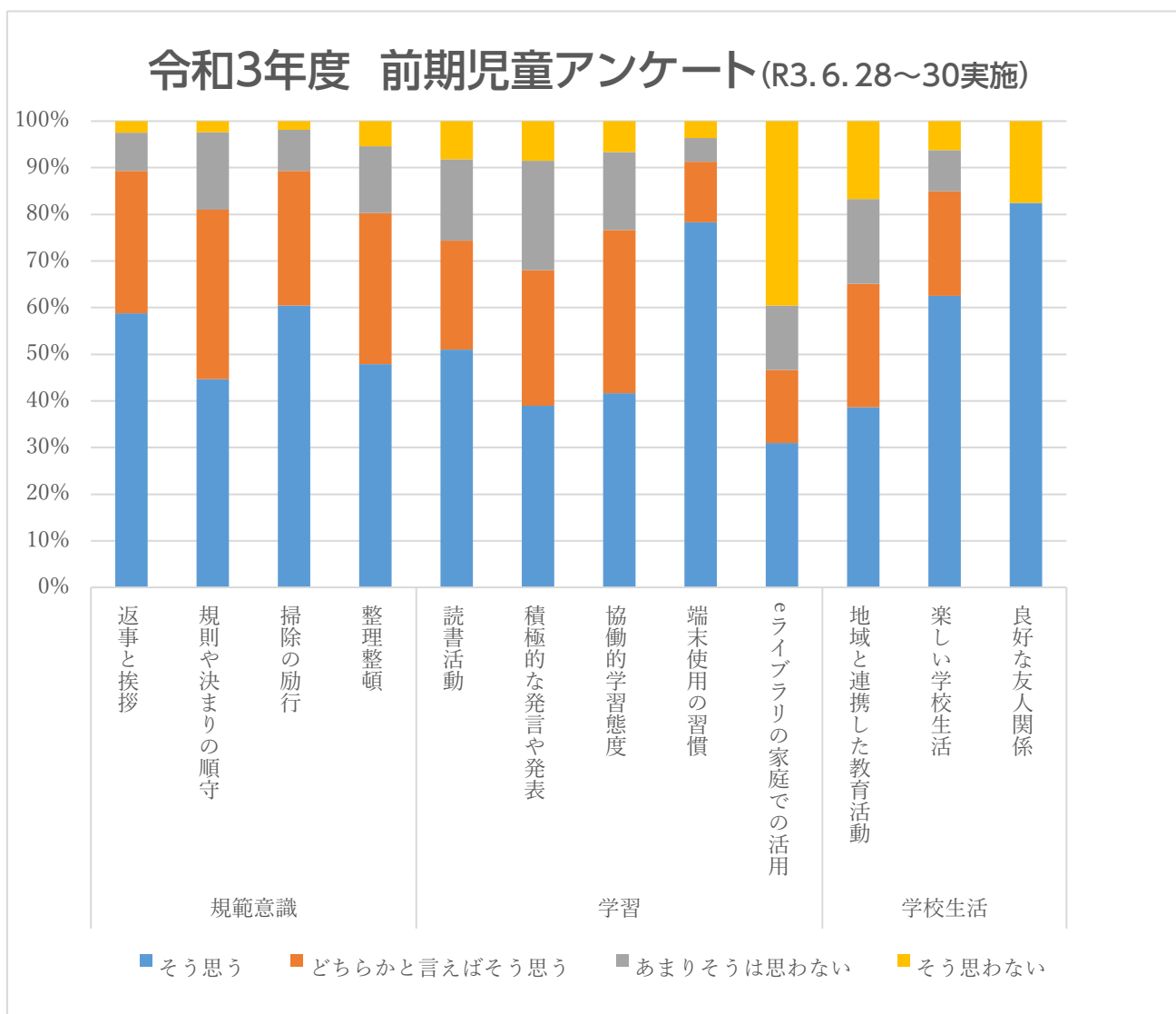


<令和3年度 前期 児童アンケート>



1、規範意識の向上に関すること

(1) 名前を呼ばれたら「はい」と返事ができましたか。先生や友だち、見守りの方に「おはようございます」を言えましたか。

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えた児童は 89.3% でした。4 月は担任や登下校時に見守ってくださる方に、子どもたちはなかなか挨拶ができませんでした。最近では「おはようございます。」「さようなら。」が言えるようになりました。学校生活に慣れてきた 1 年生が、明るく大きな声であいさつできるようになったことが、その要因の 1 つだと思われます。はきはきした大きな声での挨拶が、周りの子どもたちにも広がって、朝の通学路や昇降口は、大変にぎやかになりました。



4月の生活目標は「あいさつをしよう」でしたが、子どもたちの様子を見て教職員が話し合い、もうひと月間延長しました。以後、生徒指導の先生が、生活目標について度々教職員や児童に話をし、学校全体であいさつの徹底に取り組みました。教職員の粘り強い取組と児童の日々のがんばりが、このような結果になった

と思います。

挨拶と言うのは不完全なまま投げかけられた言葉です。受け取った相手が「今日も元気なんだな。」「あれ？今日は体の調子が悪いのかな。」と解釈することによって、初めてコミュニケーションは成立します。挨拶は知覚したり認知したり検索したりする要素も含んだ表現行為ですので、相手が受け取らないと完結しません。相手が返してこそ、初めて挨拶としての意味を持ちます。一方通行の言葉の投げかけにならないよう、挨拶が飛び交う学校にしたいと思います。



(2)「チャイムを守る」「廊下を歩く」などの学校の決まりや学級での決まりを守れましたか。

「そう思う」は44.7%、「どちらかと言えばそう思う」は36.3%です。「チャイムを守る」「廊下を走らない」は、学校生活を送る上での最低限の決まりですが、チャイムが鳴っても運動場などでうろうろして教室に入ろうとしない子や、休み時間に廊下で鬼ごっこをする子、給食のパンを廊下で歩きながら食べている子、柵やフェンスを乗り越えたり壊したりして立入禁止場所に入る子がいます。このような子どもたちは多くの場合、ゆがんだ価値基準で安易に仲間と同調し合い、ルールにも教師の指示にも素直に従いません。きまりやルールを守らない友だちが一人でも出てくると、仲間に合わせて同じ行動に出て、自分の意思で行動できないのです。この設問に「あまりそうは思わない」「そう思わない」と回答した19%の子どもたちが、後期児童アンケートでは少しでも減少するよう、教職員全員が同じ基準で子どもに注意をし、学校としてのルールの確立に力を入れていきたいと思います。



(3)まじめに掃除をしましたか。

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えた児童は、合わせて89.3%でした。掃除時間の子どもたちの様子を見ていますと、できるだけ早く掃除場所に行って、自分の仕事を一生懸命しています。廊下や階段にゴミが散乱しているようなことは見受けられません。これは、教職員も子どもたちと一緒に清掃活動をしたり、見回りながら指導をしたりすることが、子どもたちに良い影響をもたらしているからだと思います。新型コロナウイルス感染症の拡大がまだまだ懸念される中、日々の清掃活動は大変重要で、子どもたちもそのことをよく分かっているようです。今後もこの状態が続くよう、見守りたいと思います。



(4)忘れ物や落とし物をしないよう、身の回りの整理整頓をしていましたか。

「そう思う」は47.8%、「どちらかと言えばそう思う」は32.5%で、肯定的な回答をしたのは児童全体の80.3%でした。確かにどの教室でもロッカーの中やフックに自分の物がきちんと置かれています。教室が狭く、床に物が散乱しているは、机と机の間を通ることができませんので、子どもたちは入学した時から整理整頓の習慣がついているのでしょう。とても大切なことだと思います。しかしながら、毎日職員室に届けられる落とし物は、かなりたくさんあります。そして悲しいことに、引き取り手がないのです。名前を書いていさえすれば、落とし主の元に返すことができますが、ほとんどは名前のない落とし物です。物が溢れる時代、無くしても次の物を用意できるからだと思うのですが、自分の持ち物がなくなったことに気づく繊細な心を忘れないように、ご家庭とも協力しながら整理整頓に取り組みたいと思います。

2、学習について

(5)読書タイムには熱中して本を読めましたか。

朝の読書の4原則は、

- ①みんなでする ②毎日する ③好きな本を読む ④ただ読むだけ

のシンプルなものです。「①みんなでする」は、一人では決して読まない子までが読むようになるからです。「②毎日する」については、本は心の栄養。朝食を食べて登校し、体に栄養を摂ることと同じように、毎日、心に栄養を与えるためです。「③好きな本を読む」は、好きこそものの上手なれで、自分のできることから始め、自分を見つめ直し、自分の隠れた能力や可能性に気づいて本当の自分を発見してほしいという願いが込められています。「④ただ読むだけ」ですが、朝の読書に感想や記録は求めています。ただ10分間の集中力をつけるだけです。

小学校低学年の学力差の大きな背景には語彙の量と質の差があると言われています。語彙の量や質は学習の基盤となる言語能力はもちろんのこと、人間関係を支える上でも重要ですので、本校では朝の読書活動を取り入れています。

この設問に「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答したのは74.3%でしたので、まだまだ教員の指導が必要だと感じています。机間巡視をしてどんなジャンルの本を読んでいるのか、何に興味があるのかを知って、その子どもに適した書籍を紹介したり、時には全員に読み聞かせをしたりするなど、工夫が必要だと思いました。



(6)自分の考えをみんなの前で発表できましたか。

「そう思う」と答えた児童は39%、「どちらかと言えばそう思う」と答えた児童は29%でした。自分の考えを発表できるようになる基盤として、

- ①言語環境が豊かなこと(周囲の人がきちんとした豊かな会話をしていること)、
②言葉を使いたくなるような欲求があること(こうしたい、これがやりたいという個人の欲求を、周囲の人との交流でかなえようとする)、
③体験が豊かなこと(多様な経験を伝えたい気持ちになること)

があります。①については学習規律として、自分の思ったことをすぐに口に出すのではなく、挙手して発言するという発表の約束事をきちんと守らせることが必要です。元気のいい一部分の子どもが発言の許可なく口々に言い合うような授業では、言語環境は豊かになりませんので、日々の学習活動で教員が指導します。また、②や③については、コロナ終息の兆しがなく、様々な体験活動が制限されてきましたが、できる限り学習に体験活動を取り入れ、経験豊かに子どもたちを育てていこうと考えます。



(7)友だちの考えに対して、賛成や反対の意見を言えましたか。

学びは友だちとの関わりで深まりますが、一方向のやり取りでは関わったとは言えません。友だちの意見を聞くだけでなく、友だちの意見に対して自分の考えを述べる中で、学びは深くなります。この設問に「そう思う」と答えた児童は41.7%、「どちらかと言えばそう思う」と答えた児童は35%で、合計すると、肯定的な回答をした児童の割合は76.7%です。この結果を受け、学び合う授業を、より作っていかねばならないことを実感しています。そのためのポイントは、子どもが安心して話し合える環境づくりとその時間の確保です。2~4人の少人数グループでの話し合い活動



を行うこと、また、相手の話を途中で遮らないような聞く態度を指導すること、発言したことを認めて励ます声を教員がかけること、だと考えますので、日々の授業の中でこのような時間を少しでもとっていききたいと思います。



(8)タブレット端末を使った授業に慣れましたか。

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えた児童は、合わせて91.3%でした。1学期はできるだけ毎日タブレット端末を持ち帰り、家でも学校でも使えるようにすることを目指しましたが、概ねこのめあては達成できたようです。残念ながら教員にはタブレット端末が配布されておらず、教員の機器使用技術や能力を超えて、自在に使いこなす子どもたちもあり、子どもたちに教えてもらうこともしばしばありました。

しかしながら、困った問題も出ています。授業中にこっそり端末を操作して動画を見たり、ゲームをしたり、チャットで会話したりといったことです。授業で使用しないときは画面を閉じるなど、使用ルールの徹底に力を入れたいと思います。

(9)e ライブラリを使って、家で勉強しましたか。

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えた児童は46.7%で、半数以下にとどまりました。また、約40%が「そう思わない」ですので、4割の子どもは家庭学習にタブレット端末を使っていないことになります。e ライブラリは文科省が提唱する「令和の日本型教育」の柱の1つ、である「個別最適な学び」を推進するツールです。「個別最適な学び」は、個人差に応じた個別進度学習であると同時に、学習者である子ども自身による自己調整的な学習です。自分の理解力や到達度に合わせて自分の能力を最大限伸ばすために生駒市が提供したものですので、持ち帰ったタブレット端末や自宅のICT機器を使って、毎日の復習や予習に活用するよう、学校でも働きかけたいと思います。



3、学校生活全般について

(10)地域の方に教えてもらったり、一緒に活動したりして思い出に残る勉強ができましたか。



「そう思う」は38.7%、「どちらかと言えばそう思う」は26.5%でした。今年度からコミュニティー・スクールになった本校では、地域学校協働本部やスクール・サポート・スタッフに協力、支援いただき、地域の方とともに学習活動を進めています。2年生は野菜の栽培について、3年生は昔の鹿畑について教えていただきました。また、外国籍の子どもが多い本校では、学校や学年、学級で配布するプリントを翻訳するのが大変だったのですが、翻訳をしていただけの方も新たに見つかりました。植栽でこれまでもお世話になっている方との交流も秋に控えて

おり、日々の登下校の見守りは、今年度も継続していただいています。





(11)学校での生活は楽しいですか。

「そう思う」と答えた児童は 62.5%、「どちらかと言えばそう思う」と答えた児童は 22.5%ですが、気になりますのが「あまりそうは思わない」8.8%、「そう思わない」6.2%という回答です。約 80 名の児童がこの設問に否定的な回答をしており、学校としても何らかの対策をとらなければならないことを痛感しました。

学校だよりや学年だよりでもお知らせしているように、子どもたちの言動が粗暴で、丁寧さに欠けることに対し、学校では警戒感を持って対応しています。それが顕著に表れるのが日常の言葉遣いで、「死ね」「殺すぞ」「消えろ」「ムカつく」「関係ないし」など、お互いを大切に合った関係を育てることができません。そして、少しでもできないことがあると「無理」「分からん」といった無気力な言葉を口にして投げやりな態度になります。また、「何で私だけ?」「分かってます!」と攻撃的口調になり、素直に注意を聞き入れず反抗的な態度になる子もいます。

不登校児童についても校内委員会を開いて対応しています。学校に行けない理由は様々ですが、そのお子さんや保護者にできるだけ寄り添い、スクール・カウンセラー等の助言も受けながら、学校との関係や担任とのつながりを保てるよう、今後も学校全体で情報を共有し、改善に向けて取り組んでいきたいと思ひます。



(12)いじめられて困ったことや悩んでいることがありますか。

この設問に対して「ある」と回答した児童は 17.5%でした。この児童アンケートのほかに、6 月にいじめアンケートを行い、いじめを訴える児童には担任が聞き取りをして、問題を一つ一つ解決しています。誰かをいじめることで安心を得ようとする行為・・・「お前がぶつかってきたやろ」「そんなことも分からんのか」といった心無い言葉を容赦なく浴びせることや、相手の一部分が気になって、そこへの不満を平気で口にするのことに

対し、これからも全教職員が厳しく指導していきたいと思ひます。みんなで意見を出し合っ、学び合ひ、教え合ひ、支え合っ学校生活を送れるよう、見守ります。

